



鈴木三重吉文学碑（能美町中町）

明治の小説家であり、児童文学者であった鈴木三重吉の処女作『千鳥』の舞台になったと言われる旧下田家の庭にある石碑。

明治38年、三重吉が病氣療養のため能美町を訪れ、廻船問屋をしていた下田屋に滞在しました。この養生生活の体験をもとに、師の夏目漱石に近況報告として書き送ったのが『千鳥』です。『千鳥』は漱石の推奨を受け、叙情的な作風の新進作家として文壇に認められました。

碑文には、滞在中に友人に送った手紙の一節、「親のそばでは泣くにも泣けぬ沖の小島へ行って泣く」と記され、当時の三重吉の寂しい心境をあらわしたものとされています。



石碑には「親のそばでは泣くにも泣けぬ沖の小島へ行って泣く」という手紙の一節が



能美図書館では鈴木三重吉にちなんで児童文学雑誌「小鳥」を発行しています

編集後記

▼取材で、とある人のところへ行ったときのこと。ふとしたきっかけで結婚生活の話になり、「ちゃんと家事手伝いやる？手伝ってあげんにやいけんよ（笑）」とありがたいお言葉をいただきました。B型の私は、基本的に整理整頓などに関して無頓着。「明日からは」と、一応心を新たにしました。

▼平成18年度広島県広報コンクールで、本紙11月号の表紙が1枚写真の部優秀賞に入賞しました。11月号は沖美町は長の谷本さんが、かななをかけている様子を写真にしたもの。忙しい中、撮影に快く応じていただいた谷本さん。本当にありがとうございました。広報を作る際には、取材や写真撮影などで皆さんの協力が不可欠です。これからも、ご協力をお願いします。



発行／江田島市役所
〒737-1239
広島県江田島市能美町中町4859番地9

編集／江田島市総務部情報政策課
☎0822340276
Fax 0822345265